

令和7年度推薦選抜小論文【模範解答】

問1 図1－1のグラフ中に示された点線は何を表しているか。30字以内で書きなさい。

1人あたりの医療費の出費が多ければ多いほど、平均寿命は延びる (30文字)

問2 アメリカ国民の健康水準について、図1－1に示された位置からどのようなことが言えるか、50字以内で書きなさい。

アメリカ国民は、その他の国の倍以上の医療費を払っておきながら、それに遠く及ばない低い健康水準にある。(50字)

問3 下線部1)について、著者がどのように考えた根拠を130字以内で書きなさい。

アメリカでは、ほとんどが保険に加入している高所得者のグループでさえ不健康な状態にあるため、たとえ中所得者、低所得者のグループが高所得者のグループの水準まで医療アクセスを改善し有病率を低下させたとしても、同程度のイギリスの低所得者のグループの水準に止まるから。

(129文字)

問4 下線部2)について、著者が肥満などへの遺伝の影響は限定的だと考えた根拠を90字以内で書きなさい。

アメリカ移民の健康状態についての追跡調査の結果、どのような地域の出身かにかかわらず、移民のBMIが、10年後にはアメリカの平均的なBMIに追いついてしまうから。(80字)

問5 社会疫学の“上流”思考で肥満対策を考える場合、筆者はどのようなことに着目すべきと論じているか、文中の語句を用いて項目を4つ上げなさい。

運動を促進する環境
食生活を取り巻く環境
交通対策、都市設計
食文化や食生活

問6 下線部3)について、著者はどのように説明しているか。90字以内で書きなさい。

アメリカでは交通手段のほとんどを車に頼っているのに対し、イギリスでは、歩いたり、自転車に乗ったり、バスや電車による移動が、体にも、地球にもよい習慣として人々に認知されている。(87字)

問7 看護の対象である人々の健康問題に環境が及ぼしていると思った体験と、それに対して必要だと考えた看護について説明しなさい。

《採点基準》

- ①人々が抱える「健康問題」とそれに影響したと思われる「環境要因」、「必要と考えた看護」について記述していること
- ②①について、自分自身の体験を踏まえて具体的かつ論理的に記述していること